

第 15 回日本緩和医療学会学術大会

<開催日程> 2010年6月18日(金)・19日(土)

<会場> 東京国際フォーラム

厚生労働省委託事業「緩和ケア普及啓発事業」Orange Balloon Project

・ブース出展、学会員への普及啓発、制作物申込み受付、新リーフレットの紹介

学会参加者総数：6,877名

・緩和ケア市民フォーラム「がんとともに生きる知恵と勇気」開催(19日(土)18:00~19:20)

来客者総数：400名

=ブース出展・会場の様子=



=市民フォーラムの様子=





緩和ケア市民フォーラム

がんとともに生きる 知恵と勇気



2010年6月19日(土) 18:00~19:20

東京国際フォーラム「ホールC」 **参加費 無料**

司会

志真 泰夫
筑波メディカルセンター病院 緩和医療科
内布 敦子
兵庫県立大学 看護学部

演者

1. **上野 創** 朝日新聞 記者
2. **松本 陽子** NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会
3. **佐藤 温** 昭和大学付属病院 腫瘍内科
4. **高橋美賀子** 聖路加国際病院 がん専門看護師

主催/特定非営利活動法人 日本緩和医療学会
共催/日本ホスピス緩和ケア協会、日本死の臨床研究会
日本ホスピス・在宅ケア研究会、日本がん看護学会
日本緩和医療薬学会、日本サイコソコロジー学会
協賛/がん性疼痛緩和推進コンソーシアム
後援/財団法人日本対がん協会
NPO法人つくばピンクリボンの会
NPO法人乳房健康研究会
NPO法人J.POSH(日本乳がんピンクリボン運動)

企画のねらい

医療の現場では、医療の専門家(医師、看護師などの医療従事者)と患者や家族の間で持っている知識や情報の量・質ともに大きな違い、格差があり、コミュニケーションをとるうえでお互いの障壁になっています。具体的には専門用語の問題やコミュニケーション技術の問題が挙げられており、問題解決の努力が始まっています。しかし、医療従事者と患者や家族の間の障壁(ギャップ)はそれらにとどまりません。このシンポジウムでは、まずそれぞれの立場と役割で感じているギャップについて述べていただき、つぎに、それぞれの立場を離れて「コミュニケーション・ギャップ」解決の糸口を探りたいとおもいます。多くの方ががんにかかり、3人に1人はがんで亡くなる時代にがんとともに生きる知恵と勇気を持ちたいとおもいます。

■お問い合わせ

第15回日本緩和医療学会学術大会 運営事務局
TEL:06-6350-7163 FAX:06-6350-7164
〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-4-63 新大阪千代田ビル別館9階
株式会社 エー・イー企画 大阪オフィス内
E-mail:kanwa2010@aeplan.co.jp

■アクセス

東京国際フォーラム 〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-5-1

JR線 | 「有楽町駅」より徒歩1分
| 「東京駅」より徒歩5分(京葉線東京駅とB1Fコンコースにて連絡4番出口)

地下鉄 | 有楽町線:「有楽町駅」とB1Fコンコースにて連絡(D5出口)
日比谷線:「銀座駅」より徒歩5分/「日比谷駅」より徒歩5分
千代田線:「二重橋前駅」より徒歩5分/「日比谷駅」より徒歩7分
丸ノ内線:「銀座駅」より徒歩5分/「東京駅」より徒歩5分
銀座線:「銀座駅」より徒歩7分/「京橋駅」より徒歩7分
三田線:「日比谷駅」より徒歩7分

